

大学行政管理学会より

地区研究会の取組み ①

はじめに

大学行政管理学会(JUAM)は、2027年1月に創設30周年を迎える。全国の大学職員が学び合い、大学運営の高度化と職員の専門性向上を目指してきた本会において、北海道地区研究会は1998年1月、北星学園大学にて第1回研究会を開催したことに端を発する。8大学から28人が参加し、「大学改革とこれからの事務職員」をテーマとして発表や討議が行われた。以来、大学教職員の知識・スキル向上の場として活動を重ね、現在までに通算57回の研究会を開催している。

北海道地区研究会の取組み

北海道地区研究会の最大の特徴は、2008年8月から始まった「中堅・若手職員勉強会」である。それまでの研究会も、非会員や若手職員が参加しやすいテーマ設定や、アドミニストレータとしての段階的な能力開発を意図した内容が工夫されていたが、さらに入門的な内容の勉強会として設けられた。これによって、研究会への参加ハードルを感じていた中堅・若手職員層が参加しやすくなり、結果的に研究会への参加者も増えるようになった。また体系的な研修プログラムを整えることが難しい大学が、活用を促すケースも増えている。

北海道地区研究会
北星学園大学
三川清輝
鈴木峰子

目的として、2011年〜2018年頃まで活動し、その成果を研究会において発表している。また、同プロジェクトにより提案された「若手職員研修会」も、2012年から現在までに通算14回開催されている。さらに、コロナ禍を契機に、オンラインを活用した他地区研究会との交流という新たな取り組みも生まれた。2021年には、北関東・信越地区、東北地区とそれぞれ合同研究会を開催し、特に北関東・信越地区とは初回以降4年連続で開催している。物理的距離を超えてさまざまな大学に属する教職員が意見交換を行うことで、地域の特性や課題を共有し、視野の拡大と新たな連携の機会になっていることは言うまでもなく、今後も継続し、さらに発展させていきたい。

大空と大地のなかで地方の未来を紡ぐ

北海道発、大学と地域の共創ストーリー

区、東北地区とそれぞれ合同研究会を開催し、特に北関東・信越地区とは初回以降4年連続で開催している。物理的距離を超えてさまざまな大学に属する教職員が意見交換を行うことで、地域の特性や課題を共有し、視野の拡大と新たな連携の機会になっていることは言うまでもなく、今後も継続し、さらに発展させていきたい。

地方創生と大学の役割

北海道は、人口減少や産業構造の変化など、課題先進地域であり、また、国土の約22%という広大な面積に対して、人口はもろろのこと、産業・経済・文化の札幌圏一極集中が顕著である。また、地域大学振興室の設置や有識者会議の開催など、地域における高

等教育の司令塔機能の強化が進められている。2025年6月には「地方創生2・0」構想が閣議決定され、さまざまな動きが活発化しており、大学に期待される役割はこれまで以上に重みを増している。地域の特性を活かすために多様なアプローチが求められ、文化、環境、社会的側面も重視されるようになった。さらに地域住民、自治体、企業などさまざまな

しい方法論の導入、グローバルな視点など、より広範かつ柔軟な能力とスキルが必要とされていることは言うまでもない。2024年10月には、JUAM主催による講演会「少子化という社会課題に向き合う大学とは」が開催され、文部科学省の石橋晶課長による講演と、地区会員によるパネルディスカッションが行われた。北海道地区から筆者(鈴木)も登壇し、地域の現状と課題を共有した後、石橋氏が提示した3つの論点「教育のバトン」「未来創造」「社会基盤(地方創生)」に基づいて意見交換を行った。石橋氏からは「全国の教職員と議論できることが高等教育の希望」「ひとつの取組みは小さくても、同時多発的に行われることで、高等教育が社会の基盤と感じてもらえる」との心強いメッセージが寄せられ、大学関係者のためにも、地方の未来を支えていることを再認識する貴重な機会となった。

つながりが育む未来の可能性

地区研究会の活動を通じて得られるもの。それは、知識やスキルといった内的な資源にとどまらず、国立・公立・私立の設置形態を超えた人とのつながり、そして思考の拡大と新たな挑戦への原動力である。研究会や勉強会で培った視点や経験は、所属大学でのチャレンジや成果にも直結し、例えば、他大学の取り組みを参考にしながら新たなプロジェクトの立ち上げや、全国の仲間との情報交換を通じた課題解決など、日々の業務に大きな影響を与えている。さらに、活動を通じて築かれる人脈は、単なる個人の繋がりを超え、大学間の連携や地域全体の発展につながる可能性を秘めており、北海道という広大な地域の未来を支える力になるだろう。大学運営を支える職員が地域社会の担い手として成長することは、各大学の力ならず、地域の持続可能な発展を支える重要な力になると確信している。

今年度には、かつての若手職員研修会に参加していた私大中堅職員が中心となり、有志による勉強会企画グループが新たに立ち上がった。北海道地区研究会の支援のもと、すでに2回の若手職員向けプログラムを企画し、8月に開催した中堅若手職員交流会では、この企画として過去最多の35人の参加者を得るなど、活動は少しずつ広がりを見せている。このように、参加者として経験を重ねた者が企画・運営を担うことで、勉強会の質と広がりが向上し、好循環が生まれている。この循環の積み重ねこそが、地区研究会全体の持続的な発展と活性化を支える原動力である。

今年度には、かつての若手職員研修会に参加していた私大中堅職員が中心となり、有志による勉強会企画グループが新たに立ち上がった。北海道地区研究会の支援のもと、すでに2回の若手職員向けプログラムを企画し、8月に開催した中堅若手職員交流会では、この企画として過去最多の35人の参加者を得るなど、活動は少しずつ広がりを見せている。このように、参加者として経験を重ねた者が企画・運営を担うことで、勉強会の質と広がりが向上し、好循環が生まれている。この循環の積み重ねこそが、地区研究会全体の持続的な発展と活性化を支える原動力である。

今年度には、かつての若手職員研修会に参加していた私大中堅職員が中心となり、有志による勉強会企画グループが新たに立ち上がった。北海道地区研究会の支援のもと、すでに2回の若手職員向けプログラムを企画し、8月に開催した中堅若手職員交流会では、この企画として過去最多の35人の参加者を得るなど、活動は少しずつ広がりを見せている。このように、参加者として経験を重ねた者が企画・運営を担うことで、勉強会の質と広がりが向上し、好循環が生まれている。この循環の積み重ねこそが、地区研究会全体の持続的な発展と活性化を支える原動力である。